



自治会・町内会でも進めよう

持続可能な地域づくり



最近よく耳にする「SDGs」という言葉。訳すと「持続可能な開発目標」です。

17種類の目標を掲げ世界的に取り組まれています。

自治会や町内会の活動の中で「SDGs」を推進するには、どんなことができるのか今回は活動例をあげてみます。ぜひ、自治会で出来ることを話し合ってみてはいかがでしょうか。



1. 貧困をなくそう

- ・見守り活動を強化し、行政など必要な機関へ速やかに繋ぐ仕組みづくり。
- ・自治会独自のフードドライブ実施。

まだ食べられる食品や日用品等を集め、必要な方に配布する取組み。(定期開催)

- ・老若男女が集える居場所づくり。

例)空家や自治会館を活用したサロンなど。(気づきの場)



3. すべての人に健康と福祉を

- ・健康増進につながるバントの実施。

例)オリエンテーリングやウォーキングイベント、体操教室やヨガ教室など。

老若男女問わず参加できるイベントを積極的に開催。

- ・健康に関する啓発活動。例)健康落語など(健康の話を落語で楽しく学ぶ)
- ・ウォーキングや自転車の活用を推進する。(健康寿命を延ばす取組み)



5. ジェンダー平等を実現しよう

- ・自治会活動の男女共同参画を推進する。

(女性の自治会への参画を推進する)

- ・女性や女兒を狙った犯罪の防止に努める。(見回りの強化など)

- ・LGBT (性的指向・性自認) への正しい理解と知識を持ち、差別や偏見をなくす取組みをする。

例)アンケート等を取る際、性別を `男、 `女、 だけでなく `その他、 を入れいる。





7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに

- ・ゴミの削減に自治会として取り組む。(イベント時のゴミの削減など)
- ・集会所などの節電・節水に取り組む。(呼びかけをする)
- ・LEDを活用する。(街頭や自治会館の電球をLEDへ切り替えるなど)
- ・公共交通機関の利用や徒歩・自転車の活用を進める!
- ・イベントの際、マイ箸・マイボトル・マイバックの活用。
- ・フードロス減らす働きかけをする。
- ・環境に配慮した製品やサービスを利用する。



11. 住み続けられる まちづくりを

- ・「認知症」や「障がい」について正しく理解をし、地域住民で支え合えるやさしいまちづくりをする。

例)自治会で「認知症サポーター養成講座」を実施するなど。

(子どもから大人まで参加できる講座を開催)

※「認知症サポーター養成講座」開催をご希望の場合は、市社協へご相談ください。

- ・災害弱者を守る取り組み。

例)災害弱者の把握と避難方法の確認などを定期的に行う。

- ・安心・安全なまちづくりの充実を図る。(防犯・防災に強いまちづくり)
- ・子どもから大人まで集える場所をつくる。(サロンやイベントの実施)

例)自治会館や空き家などを活用し、子どもから大人まで集える場を設置。

- ・住民同士が顔見知りになり、挨拶を交わせる環境を整える。
- ・近隣自治会との連携強化。例)災害時などを想定した合同避難訓練の実施など。
- ・児童・生徒の登下校見守りボランティアへの参加。



SDGs(持続可能な開発目標)の目標達成には、一人ひとりの取り組みが大切です。自治会だけでも達成はできませんし、社会福祉協議会だけでもできません。

皆様と一緒に取り組むことで子どもや孫たちにも安心して暮らしていける、より良い環境をつくることができます。

まずは、11番の目標(住み続けられるまちづくりを)を考えてみてはいかがでしょうか。社会福祉協議会で策定した「第6次我孫子市地域福祉活動計画」でもSDGsを意識した内容になっています。目標達成に向けて、みなさんと一緒に取り組んでいきます!

「認知症サポーター養成講座」などの講座の開催についても、お気軽にご相談ください。講師のご紹介などをさせていただきます。